

セコニック フラッシュメーター

SEKONIC FLASH METER

model **L-256D**

説明書



セコニック

お買いあげをいただき、ありがとうございます。

この取扱い説明書をよくお読みいた  
だいて、セコニック・フラッシュメー  
ターL-256Dの性能を十分にご活用く  
ださいますよう、お願いいたします。



株式  
会社

セコニック

本社・営業所 〒177 東京都練馬区大泉学園町7-24-14 03 (922)2153  
大阪営業所 〒541 大阪市東区本町2-25 本町ビジネスビル 06 (203)1571  
(263)  
名古屋営業所 〒460 名古屋市中区栄5-8-14 万国ビル 052(251)6201  
東京サービスセンター 〒162 東京都新宿区市ヶ谷田町3-8 新杵ビル 03 (269)7241

# アフターサービスについて

弊社の製品には一定期間内の無料修理をお引受けする保証書が添付されることになっておりますので、記載事項をお確かめのうえ販売店よりお受取りください。

なお保証書の再発行は致しませんので、取扱説明書と併せて大切に保管してください。

## ●無料保証期間などについて

- ①無料保証期間はお買上げ日より1ヵ年間でございます。
- ②保証書にお買上げ日および販売店名のないものは保証の対象になりませんので、必ずお確かめください。
- ③無料保証期間内でも有料修理となる場合もございますので、保証書の記載事項をお確かめください。
- ④保証期間経過後の修理は有料となります。また、運賃諸掛りはお客様にご負担願います。

## ●補修用性能部品の保有期間などについて

- ①補修用性能部品は7年間を目安に保有しております。したがって、本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお故障箇所によりましては期間が過ぎても修理可能な場合がありますのでサービスセンターにお問合せください。
- ②修理可能期間をご使用の状態や環境、お手入の状態などによって異なる場合がありますので、現品をご持参のうえお買上げ店またはサービスセンターにご相談ください。
- ③修理可能期間内でも浸冠水、強度のショック、その他損傷のいちじるしいもので、修理後の機能維持に問題が残ると思われるものにつきましては修理不能となる場合があります。

## ●修理ご依頼時における留意事項

- ①修理品につきましては、故障内容を、またご指定の修理箇所があります場合には、その指定箇所をできるだけ具体的に申し出てください。ご指定のない場合には、各部点検をはじめ品質的、性能的に必要と認められるすべてのところを検査・調整・修理することになり、修理料金が加算される場合がありますのでご注意ください。
- ②修理をご依頼されたものの中には、単に電池を交換するだけで正常に作動する「故障していないもの」が見受けられます。電池の容量低下、⊕ ⊖の逆、定格違いなどについて、よくお確かめください。

## ●転居・贈答品の場合の手続きについて

- ①転居または遠隔地からの贈答品で販売店にご依頼しい場合は、最寄りのサービスセンターにご相談ください。

## ●お問合せ先について

本製品の保証、修理、使い方などのお問合せは、最寄りのサービスセンターをご利用ください。

## ■目次

本機の特長	2
仕 様	3
各部の名称	4
準 備	
1・バッテリーを入れます	6
2・バッテリーチェック	7
3・ゼロ位置の調整	7
付 属 品	
1・光 球	8
2・白色平板	8
3・光角度板	8
4・シンクロコード	9
入射光式の測定	
1・シンクロコードを用いない〔入射光式〕の測定	10
2・シンクロコードを使用した〔入射光式〕の測定	12
反射光式の測定	14
一般露出計に	16
コントラスト測定	18
照度(ルクス)の測定	19
特殊な利用法	
1・増灯器としての利用法	20
2・2灯以上のフラッシュの操作一覧	22
取扱い上の注意	23
アフターサービスについて	24
コバルト本社・工場の所在地	25

## 本機の特長

- 1・セコニック・フラッシュメーター L-256Dは、すでにご愛用いただいている〔スタジオデラックス28シリーズ〕に、瞬間的なフラッシュ光を測定できるように開発したハンディタイプのフラッシュメーターです。
- 2・内部回路には、高信頼性の電子部品と、プリント配線などを採用したことにより、なお一層の耐久性が得られるようになりました。
- 3・受光素子に、シリコン受光ダイオードを採用したことにより、光応答性にすぐれ(10 $\mu$  Sec)、安定性と正確さがいちだんと向上しました。
- 4・入射光式を主体として、反射光式の測定も可能なほか、一般露出計としても使用できます。
- 5・フラッシュメーター単独の、ノーコードで測定ができます。わずらわしいコードによる制限がありませんので、操作は簡単に、しかもスピーディです。もちろんコードを使用し、測定者が自由に発光させながら測定することもできます。
- 6・指針は、受光後約1分間ストップ状態になるよう、電子回路を設計しています。
- 7・特殊利用法として、ストロボの増灯器としても利用できます。



## 取扱い上の注意

フラッシュメーターL-256Dは精密機械ですので、下記の点にご注意ください。

- a・落下、または急激な衝撃は絶対にさけてください。
- b・極度の高温、多湿の場所には保管しないでください。
- c・磁性に影響ある所、および防虫剤の入っている所での保管はさけるようにしてください。(金属キャビネット、たんす等)
- d・光球、白色平板は、傷がつかない

ように、また常に清潔に保つようにしてください。(汚れが著しいときは、石けんを溶かしたぬるま湯でよく洗浄してください)

万一故障が起きたときには、最寄の営業所、またはサービス・ステーションにお持ちください。

お近くに、営業所またはサービス・ステーションがなく郵送される場合には厚さ3cm以上の衝撃よけパッキングに包んでから、段ボールなどで梱包してください。

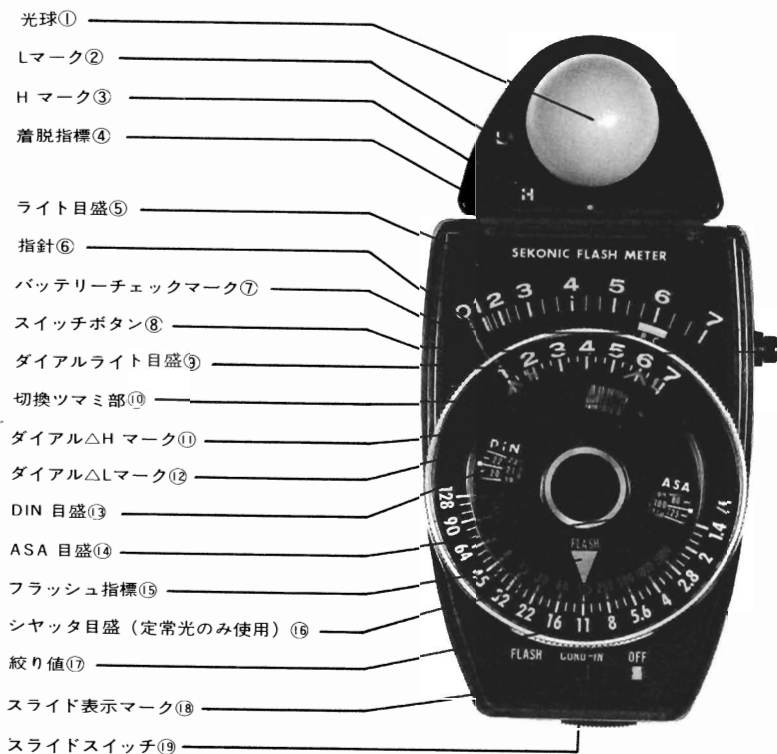
# 操作一覽

# 仕様

	ストロボ光	定常光	
入射光式測定	光 球		※※スイッチボタン⑧を押すときは、ライト目盛を読みとる迄押し続けること ※※スイッチボタン⑧を押し続けたまま、スライドスイッチ⑬をFLASHにする ことができず
反射光式測定	光 角度板		
一般露出計として		光球・光角度板	
コントラスト測定	白色平板	白色平板	
照度(ルクス)測定		白色平板	
シンクロコードを用いないとき	FLASH ■ □ □	CORD-IN □ ■ □ スイッチボタン を押す	
シンクロコードを使用するとき	CORD-IN □ ■ □ スイッチボタン を押す⇒発光		

測定方式	入射光式・反射光式兼用 フラッシュ光のほか、定常光も測定可能 高低2段切換え
測定範囲	フラッシュ光 入射光式 13.9~28,500 LxSec 反射光式 1.24~2,540cdSec/m <sup>2</sup> 定常光 入射光式 ASA100で、9~20 反射光式 ASA100で、10~21
測定精度	±0.3EV以内(1/2絞り以内)
受光部	入射光式……光球および白色平板 反射光式……光角度板(ASA×2) 素子……シリコン受光ダイオード フィルターにより分光特性補正
ASA目盛	6~12,000
DIN目盛	9~42
絞り目盛	1.4~128
シャッタ目盛	1~1/2000 秒(定常光のみ使用)
電 源	水銀電池JIS記号HM-4N型(5.6V) 1個
電子回路	電子回路による指針ストップ装置、バッテリーチェック機構付
標準付属品	光球・白色平板・光角度板(ASA×2) シンクロコード
校正常数	C=340 K=15.2
大 き さ	136×65×45mm
重 量	約320g

# 各部の名称



白色平板⑳

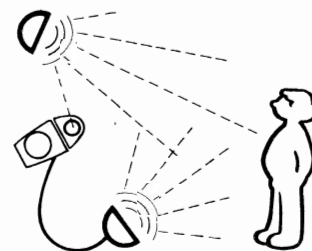


光角度板㉑



## 〔応用例 a〕

フラッシュメーターと増灯用ストロボを、直接シンクロコードで接続します。

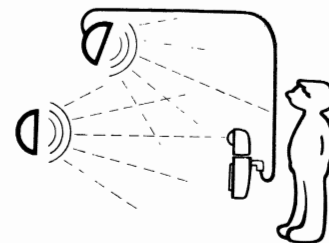


メインフラッシュと同時に補助光源を  
発光させます

## 〔応用例 b〕

フラッシュメーターを被写体位置に  
置けば、増灯と同時にその時の全光量  
(増灯したストロボもふくめて)も測  
定できます。

この場合スライドスイッチ⑲はFL-  
ASHにしてください。



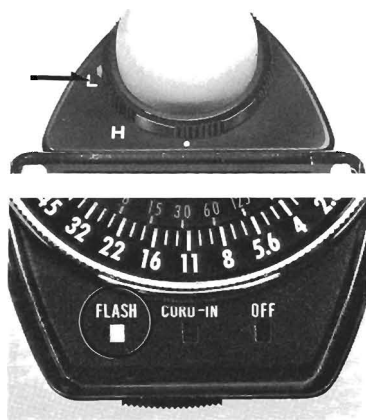
増灯すると同時に、増灯した光量もふ  
くめて全光量を測定します

# 特殊な利用方法

メインフラッシュの光を受けると、同時に補助光源を発光させます



増灯器として使用するときは、光球を使い、スライドスイッチをFLASHに

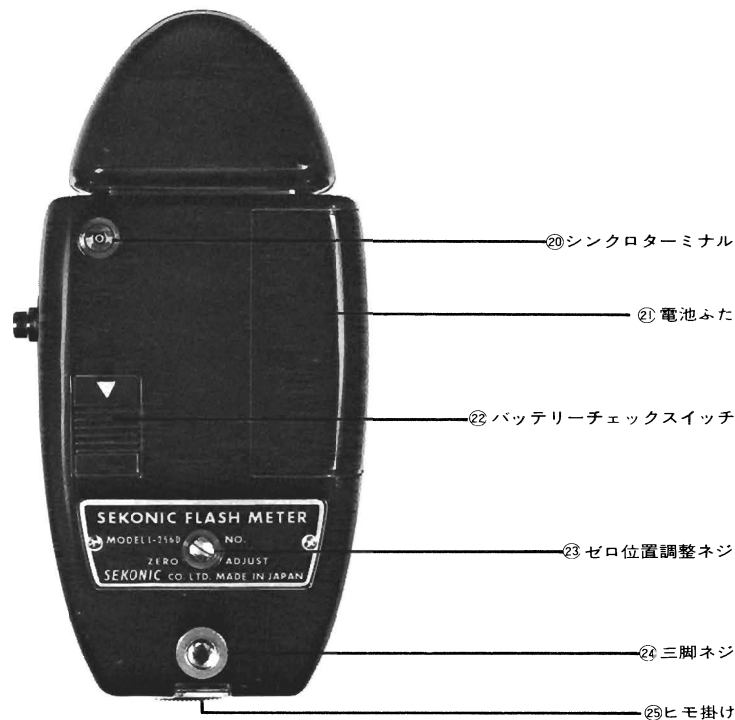


## 1・増灯器としての利用法

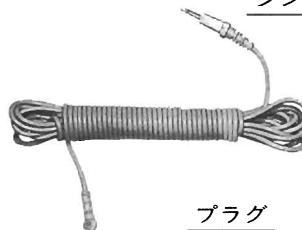
メインフラッシュを発光すると同時に、瞬間的にフラッシュメーターが光をキャッチし、増灯用ストロボを同時発光させる、便利な利用法です。

### 〔利用方法〕

- 受光部に光球①を取り付けます。
- スライドスイッチ⑩をFLASHまたはCORD-INにしてください。
- 増灯用ストロボと、フラッシュメーターをシンクロコード⑫で接続します。
- メインフラッシュを発光すると増灯用フラッシュも同調して発光します。



シンクロコード⑫



プラグ



変換コード赤黒各1本

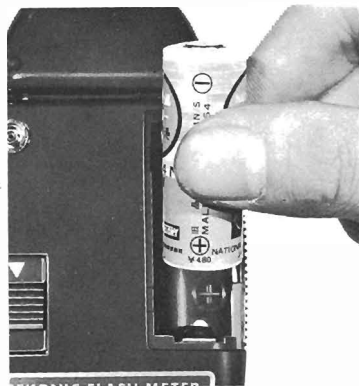
## 1. バッテリーを入れます

バッテリーは J I S 記号 HM-4 N 型(5.6V)水銀電池を1個使用します。(MALLORY TR-164, Eveready E164)

電池ふた②の凹部につめをかけ、軽くもちあげますと、ふたがはずれます。電池の+極、一極を確認してから電池ケース内の極性の指示どおりに、正しく挿入してください。

電池のふた②をかぶせて閉じるときは、2カ所の凸部を本体の受け口に合せてかぶせ、軽く押しとり付けます。

極性を確認して、挿入します



ふたの凸部を本体の受け口に



### 〔ご注意〕

- \*フラッシュメーターを使用しないときは、スライドスイッチ⑨を必ず OFF にする習慣をつけてください。(これは電池の余分な消耗を防ぐためです)
- \*長時間(1ヵ月以上)使用しない際は電池を取りだして、乾燥した場所に保管してください。

## 照度(ルクス)の測定方法

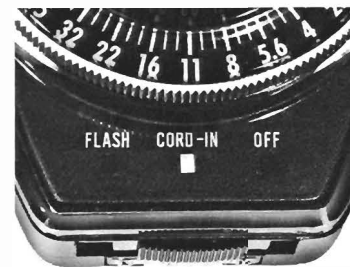
〔白色平板を使用〕

白色平板を使用すると、照度計として使用することができます。

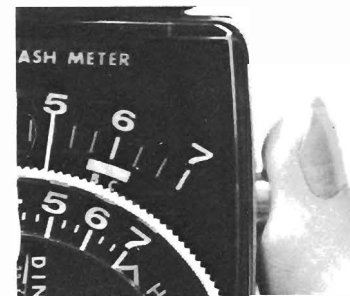
### 〔測定方法〕

- 白色平板⑯を、受光部に取り付けます。
- 受光部を測定面に平行におき、スライドスイッチ⑨をCORD-IN にして、スイッチボタン⑧を押してください。(シンクロコードは不用)
- ライト目盛⑤から指針の示した数値を読みとり、次の換算表から照度(ルクス)が得られます。
- 白色平板がHマークのときは、表のルクス数値を32倍してください。
- 換算表の照度(Lx)に%を掛けると LxSec となります。

白色平板を使って照度を測定するにはスライドスイッチをCORD-IN に



受光部を測定面に平行におき、スイッチボタンを押します



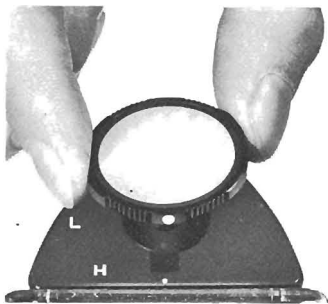
ライト目盛	1	2	3	4
ルクス	1,740	3,480	6,960	13,920

ライト目盛	5	6	7	—
ルクス	27,840	55,680	111,360	—



# コントラスト測定

コントラストを測定するときは、白色平板を取り付けてください

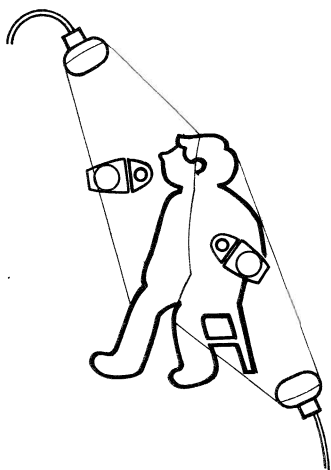


## 定常光およびフラッシュ光の コントラスト測定の方法 〔白色平板を使用〕

被写体位置での主光源による明るさと、補助光源による明るさを、それぞれ測定した照明コントラスト比を調整するときに使用します。

### 〔測定方法〕

- 白色平板⑳を、受光部に取り付けます。取り付け方法は光球①、光角度板㉑と同様です。
- シンクロコードを用いないとき及び用いたときの操作の仕方は、入射光式の操作と全く同様です。



被写体位置で、主光源と補助光源の明るさをそれぞれ測って、比較できます

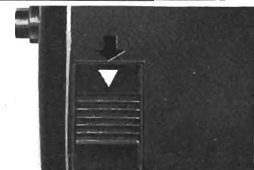
## 2・バッテリーチェック

電池が規定の電圧以下になりますと、メーターは正しい測定値を示さなくなりますので、使用する前に、あらかじめ電池の電圧をチェックしてください。

### 〔チェックの方法〕

- スライドスイッチ⑱を、FLASHまたはCORD-INにします。
- 本体うら側のバッテリーチェックスイッチ㉒を、白三角印方向から下方へ、いっぱいにはスライドさせてください。
- 指針⑥がバッテリーチェックマーク⑦の範囲をはずれた場合は、電圧が低下しているのですから、新しい電池と交換してください。

スライドスイッチをFLASHまたはCORD-INにして、チェックスイッチを下方へ押す



## 3・ゼロ位置の調整

スライドスイッチ⑱と、スイッチボタン⑧がOFFの状態では指針がゼロ位置からずれているときは、本体うら側のゼロ位置調整ネジ⑲で正しい位置に調整してください。

調整ネジを左右に回し、指針を正しく



### 〔調整の方法〕

- 調整ネジ⑲のミゾに、ドライバーを正しく挿入します。
- 指針⑥を見ながら、ドライバーを静かに回転させて正しいゼロ位置に指針⑥を合せます。

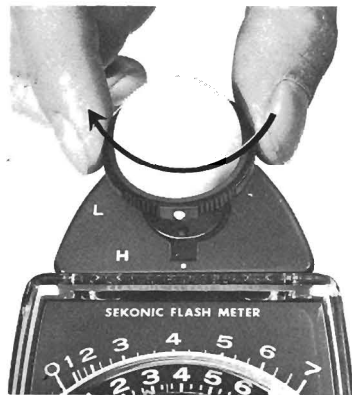


# 付属品

光球



光球の白色突起点を、本体の指標に合せて、時計方向へ回わす



白色平板



光角度板



## 1. 光球

光球①は、入射光式で露出を測定するとき 사용합니다。

〔取付け方法〕

- 光球①の基部の端につけられた白色突起点を、本体の着脱指標④に合せます。
- 光球基部が本体と正しく密着するように挿入してください。
- 光球基部を時計方向に回転させクリックで固定される位置まで回わして取付けます。
- 本体のHマーク③は、光量の特に多いときの測定に使用する指標で光球の白色突起点を、Hマーク③のクリック位置に合せます。
- 本体のLマーク②は、光量の少ない時に測定するとき使用する指標で光球の白色突起点をLマーク②のクリック位置へ合せます。
- 光球を取りはずすときは、この逆の方法で行います。

## 2. 白色平板

照度をルクス単位で測定するときと照明コントラスト調整に使用します。

取付け方法は、光球の取付け操作と同じです。

## 3. 光角度板

反射光式で露出を測定するとき 사용합니다。取付け方法は、光球の取付け操作と同じです。

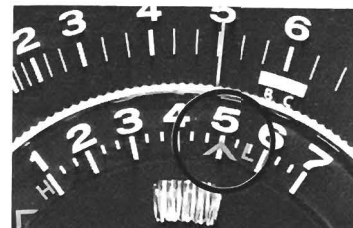
- ライト目盛⑤の数値を、ダイヤルライト目盛に移しかえ、ダイヤルの△マークをその数値に合せてください。
- 受光部がLマークのときはダイヤルの緑の△Lマークを合せます。受光部がHマークのときはダイヤルの赤の△Hマークを合せてください。
- △マークを合せたら、絞り値⑦と対応するシャッタ目盛⑧の組み合わせが得られます。

〔ご注意〕

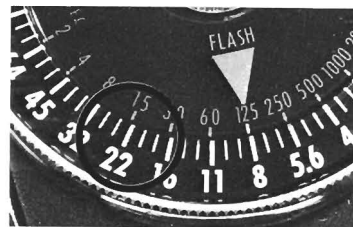
ダイヤルのFLASH指標⑬は、この場合関係ありません。 $\frac{1}{25}$ 秒を示す位値となります。1秒から $\frac{1}{2000}$ 秒までを、絞り値と組み合わせてご利用ください。



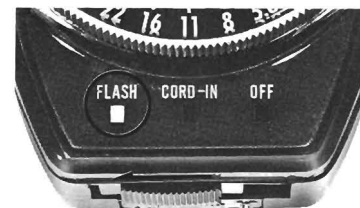
スイッチボタンを押したまま数値を読み



ダイヤルの△指標に数値を移します



絞り値はシャッタ速度と組み合わせます



FLASHにスライドすると、指針はとまります

# 一般露出計に



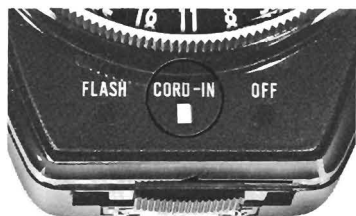
入射光測定→光球を使用



反射光測定→光角度板を使用



反射光のときはフィルム感度を2倍に



スライドスイッチはCORD-INに



スイッチボタンを押して測定します

## 一般露出計としての測定

### 〔入射光式〕測定法

### 〔反射光式〕測定法

入射光測定のとときは光球①を、反射光測定のとときは光角度板②（光角度板を使用するときは2倍のASA数値にセットします）を、受光部に取り付けます。

### 〔測定方法〕

- スライドスイッチ⑩をCORD-INにします。ただし、シンクロコードは必要ありません。
- スイッチボタン⑧を押します。（定常光の場合でも瞬間的に受光します）

### 〔ご注意〕

スイッチボタン⑧を押している間は、光の変化があっても指針は動きません。

- 指針⑥の示したライト目盛の数値を読みとります。ただし、スイッチボタン⑧を放すと指針はゼロ位置に戻りますので、読み終るまで押し続けてください。（スイッチボタン⑧を押しながら、スライドスイッチ⑩をFLASHにすると、指針を約1分間ストップ状態にすることができます）

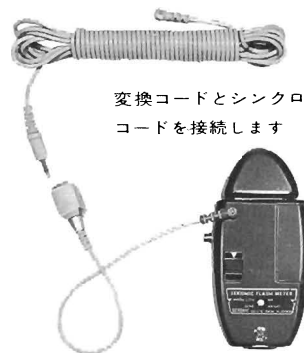
## 4. シンクロコード

フラッシュメーターとストロボを接続して測定する際に使用します。

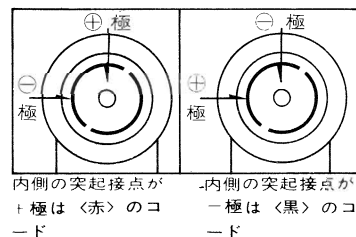
このフラッシュメーターには、付属品として約6mのシンクロコードと、極性変換コード（赤・黒各1本、計2本）がついています。

### 〔ご注意〕

- フラッシュメーターのシンクロターミナル⑭は、外側の接点が(-)極、内側の突起接点が(+極)になっています。
- ご使用のストロボによってはこの接点の極性が逆になっている場合がありますので、極性変換コードの赤・黒いずれかを選び、シンクロコードと接続してご使用ください。
- ストロボのターミナル極性が外側が一極、内側の突起接点が+極のとき。〈赤色の変換コードと、6mのシンクロコードを接続〉
- ストロボのターミナル極性が外側が+極、内側の突起接点が-極のとき。〈黒色の変換コードと、6mのシンクロコードを接続〉
- ご使用のストロボのターミナル極性が不明のときは、赤・黒のいずれかで試してから決定し、ご不用の変換コードを別に保管されると使用上の混乱を防ぐことができます。
- 極性が異なる場合は、本体とストロボを接続しても、スイッチボタン⑧を押した時、ストロボは発光しません。（操作方法は後述を参照）

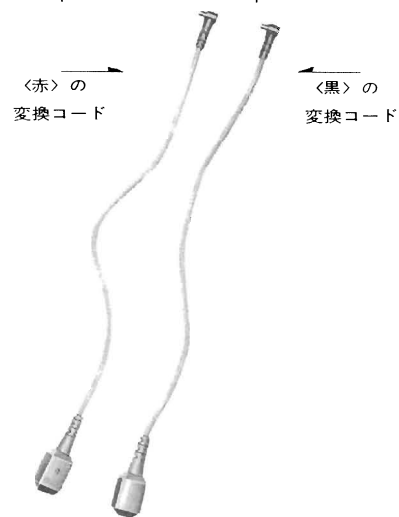


変換コードとシンクロコードを接続します



内側の突起接点が+極は〈赤〉のコード

内側の突起接点が-極は〈黒〉のコード



〈赤〉の変換コード

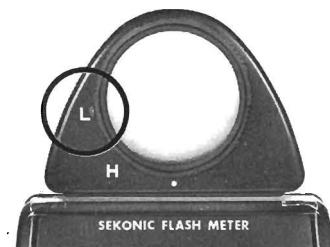
〈黒〉の変換コード

# 入射光式の測定

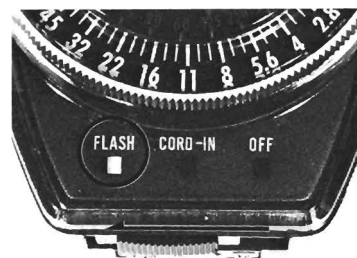
ダイヤルを指で押え、切換えつまみ部を回しフィルム感度をセットします



光球はLマークでほぼ測定できます



スライドスイッチはFLASHにします



## 1. シンクロコードを用いない〔入射光式〕の測定法

一般的には光球①をつけた入射光式の測定方法を主としていますので、この基本的な使用方法を説明しましょう。

### 〔フィルム感度のセット〕

あらかじめ、ご使用のフィルムの感度をセットしてください。

- a・ダイヤルを押え、切換えつまみ部⑩を指先で回わします。
- b・フィルムのASA (DIN)感度の数値を、ASA (DIN)窓⑬⑭の白い線に合わせてください。

写真では、ASA 100 (DIN 21) に合わせてあります。

### 〔測定方法〕

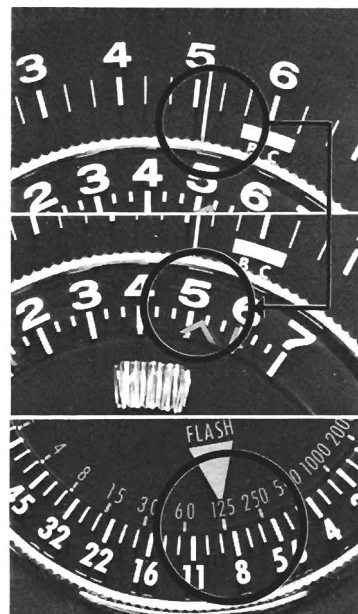
- a・光球①を、受光部に取り付けます。H (High) とL (Low) の切り換えは、かなり強い (高出力) スピードライトを用いないかぎり、L側で測定できます。なお、ASA 100・F16 以上はH側で測定してください。
- b・スライドスイッチ⑯をFLASHの位置にしてください。
- c・フラッシュメーターは、被写体の測定したい位置から、受光部 (光球①) をカメラ方向に向け、ストロボを発光します。
- d・指針は、受光後約1分間ストップ状態となります。1分を経過すると、指針は自動的にゼロ位置に戻ります。
- e・再測定、またはすぐに指針をゼロ位置に戻りたいときは、スライド

- c・フラッシュメーターを、被写体の主要部にできるだけ近づけて、被写体からの反射光を測定してください。このとき、フラッシュメーターの影を測定部に入れないように十分に気をつけてください。
- d・指針⑥の示した数値をダイヤルライト目盛⑨に移しかえます。光角度板⑭がLマークのときは緑の△マークを合せ、Hマークのときは同様に赤のHマークを合せます。
- e・FLASH指標⑯の示した数値が絞り値を表わします。
- f・シャッター速度の数値は、この場合関係ありません。(一般の露出計として使用する場合に用います)
- g・スライドスイッチ⑯の操作は、入射光式と同様に操作してください。



被写体にできるだけ近づけて測定します。操作は入射光と同じです

指針の指示した数値をダイヤルに移すと、絞り値が得られます



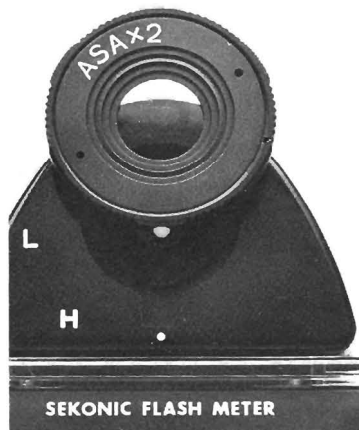
### 〈ご注意〉

反射光式の測定の場合、標準反射板をご使用になると、より正しい数値が得られます。

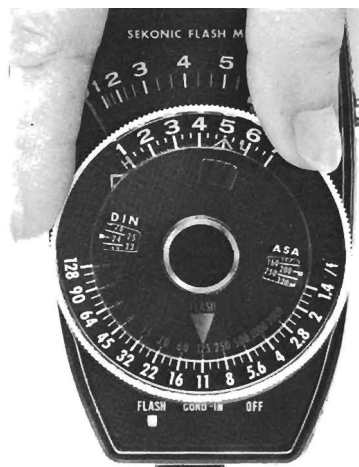
露出計の受光部は、測定したい箇所に正しく向けてください。

# 反射光式の測定

光角度板を受光部ににつけます



ASA 感度数値を2倍にした数値を、ダイヤルにセットします



## 反射光式の測定方法

〔光角度板〕を使用

反射光式で測定するときは、受光部に光角度板⑳を取り付けてください。シンクロコードを使用しないときと使用する場合のそれぞれの操作は、前述の入射光式の操作と同様です。

### 〔測定方法〕

- 光角度板の基部にある白色突起点を本体の着脱指標④に合せて挿入し、時計方向に回わしてクリックによって固定される位置まで回転させます。
- ASA 数値を2倍にした数値をダイヤルにセットします。例えば、ASA 100のフィルムではASA 200としてASA 目盛⑭にセットしてください。(DINの場合はプラス3にして、DIN 21はDIN 24に)

スイッチ⑲をOFFにすると、すぐ指針はゼロ位置に戻ります。再びFLASHの位置にスライドスイッチ⑲を戻して、再測定を行なってください。

- 受光後、指針⑥の指示したライト目盛⑤の数値を、ダイヤルライト目盛⑨に移します。

〈ご注意〉

- 光球がLマークのときは、ダイヤルの緑の△Lマークを、ダイヤルライト目盛⑨に合せます。
- 光球がHマークのときは、ダイヤルの赤の△Hマークを、ダイヤルライト目盛⑨に合せます。

- ダイヤル目盛を合せた状態で、FLASH 指標⑱の示した数値が絞り値となります。

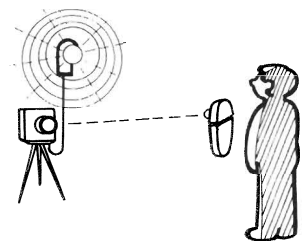
〈ご注意〉

- FLASH指標⑱のところに125とあるシャッタ速度の表示はストロボ撮影の場合には関係ありません。
- このシャッタ速度の表示は、一般の露出計として定常光を測定するときのみ使用します。
- このメーターは、閃光電球では使用できません。

〔測定上の注意〕

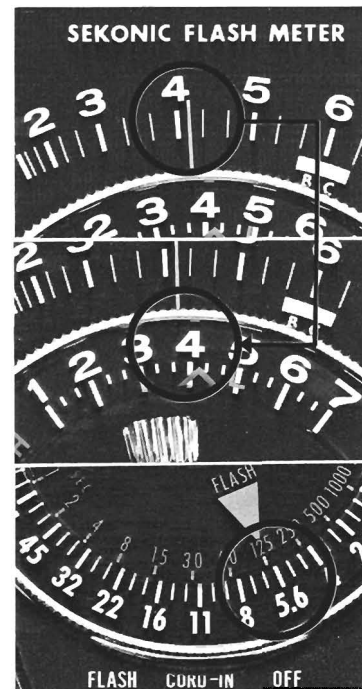
測定したい部分に露出計をできるだけ近づけ、受光部の光球をカメラレンズに正しく向けてください。

光球が著しく汚れた場合は、誤差をもたらしますので、ぬるま湯で洗滌してからご使用ください。



被写体の位置からカメラに受光部を向け、発光させます

指針の指示した数値をダイヤルに移すと絞り値が得られます



## 2・シンクロコードを使用した〔入射光式〕の測定法

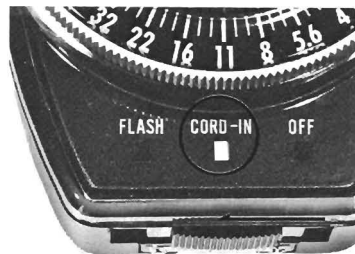
次のような測定条件のときは、ストロボとフラッシュメーターをシンクロコード⑳で接続してください。

- a・1人で撮影するとき、被写体位置で発光させ、測定したいとき。
- b・日中シンクロ撮影の際、シンクロコードを使用しないで（スライドスイッチ⑱をFLASH位置）発光してもメーターが感しないとき。

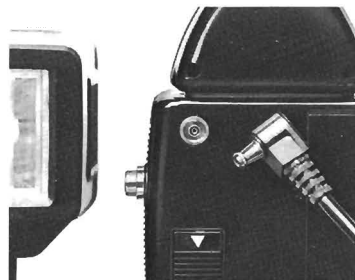
### 〔測定方法〕

- a・フィルム感度をセットします。
- b・光球①を受光部に取り付けます。
- c・スライドスイッチ⑱をCORD-INにします。
- d・付属のシンクロコード⑳で、ストロボとフラッシュメーターを接続します。
- e・被写体位置からフラッシュメーターの受光部をカメラ方向に向けスイッチボタン⑧を押してください。押すと同時にストロボは発光します。
- f・指針⑥は、スイッチボタン⑧を押し続けている間だけストップ状態になっています。ライト目盛⑤の数値を読みとるまで押し続けてください。指を放すと、指針⑥はゼロ位置に戻ります。

スライドスイッチをCORD-INに

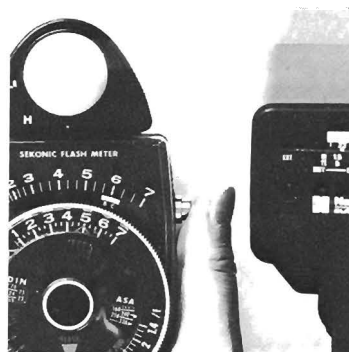


シンクロコードで接続します



- g・受光した状態のまま、指針⑥を一時ストップさせたいときは、スイッチボタン⑧を押し続けながらスライドスイッチ⑱をCORD-INから、FLASHへ移動させてください。約1分間、指針をストップさせることができます。
- h・絞り値の読み取り方は、前述と同じです。

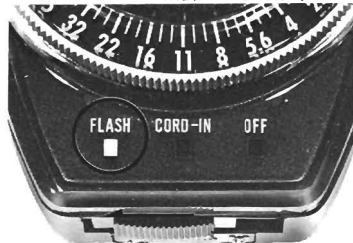
スイッチボタンを押すと発光し、同時に測定ができます



スイッチボタンを押し続けている間だけ、指針はストップします



スイッチボタンを押したままFLASHにスライドすると、指針は止まります



### 〔ご注意〕

フラッシュメーターに、シンクロコード(変換コード)を接続するとき。または、コードを接続してスライドスイッチをOFFからCORD-INにしたとき。シンクロコードを接続していて、他の方のストロボ光をメーターが受けたとき。ストロボが発光することがあります。故障ではありませんので、そのままご使用ください。